学校番号	1205

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・数学Ⅰ・数学Ａの内容を扱い、問題演習を通して基礎的な知識の定着、また実践力の向上をめざします。積極的に授業に参加してください。
・授業中に演習を行う時間を多くとります。まずは自分の力で問題を解いてみましょう。問題の正誤に関わらず、自分で問題を解く、という姿勢が大切です。また、プリント学習の授業ですが、板書以外にもどんどんメモを取りましょう。
・授業中や家庭学習として課された課題は、最後まで取り組み、期限を守って提出するようにしましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
それぞれの単元において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】
事象を数学的に考察、表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることを通して、数学的に思考力、判断力、表現力を身に付ける。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度､粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	それぞれの単元において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	事象を数学的に考察､表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることを通して、数学的に思考力、判断力､表現力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	数と式	多項式の計算 因数分解 根号を含む式の計算 一次不等式	a:計算の法則や公式の意味を理解し、式を変形したり計算したりできる。 b:式を数学的に考察して立てたり計算したりできる。 c:日常の事象を数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 取り組み
	2次関数	二次関数とそのグラフ 二次関数の最大･最小 二次方程式 二次不等式	a:二次関数の値の変化を理解し、グラフを描くことができる。また、グラフを用いた最大値や最小値、方程式や不等式の解の求め方を理解している。 b:二次関数とグラフの特徴について考察し、問題解決に役立てることができる。 c: 日常の事象を数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 取り組み
2	データの分析	データのちらばり データの相関	a:データの分析における基本を理解し、分散や相関係数などの知識を身に付けている。 b:散布図や相関係数からデータの傾向を捉え、データを考察することができる。 c:分散や相関係数を用いてデータの傾向を把握し、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 取り組み

	場合の数・確率	集合の要素の個数 順列･組み合わせ 確率の計算	a:順列や組み合わせの計算方法、確率の意味や定義を理解している。 b:様々な条件のついた問題について、学習した公式を活用して考えることができる。 c: 日常の事象に対して、公式や学習した考え方を利用して場合の数や確率を求めようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 取り組み
3	図形の性質	図形の基本 角の2等分線と線分の比 円周角の定理 円に内接する四角形	a:三角形の角の２等分線に関する性質や円周角の定理、四角形が円に内接する条件を理解している。 b:円周角の定理を用いて、接線と弦のつくる角について考察できる。また、学習した定理を用いて角度を求めたり、図形の性質を証明したりできる。 c:三角形と線分の比や円周角の定理に関心を持ち、それらを図形の性質の考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度